

方策6. サプライチェーンの改編

コロナ禍により、サプライチェーンの分断が起こった⁹ことで、サプライチェーンを見直す機会ともなっていることが、2020年の国連事務総長によるSDGs報告書¹⁰で報告された。日本にとってこれは、地産地消の活性化や地域の見直し、地方創生にもつながる機会となりうる。内閣府による「地方創生SDGs金融」のスキームの活用なども組み合わせながら、サプライチェーンをSDGs達成に貢献するものへと改編する機会としたい。

SDGs 達成へ向けた留意点

1. サプライチェーンの見直しは、地産地消、食料自給率向上、雇用創出、感染症リスク減少など、多くのSDGsとシナジー効果を持ちうる。サプライチェーンの経由するポイントを少しでも削減するためのシステム構築は感染症リスク削減につながり得るし、フードシステムの転換はスマート農業とも結びつき得る。また、品あまり解消のための冷凍保存などの方策も、食品ロス削減効果とのシナジーが期待できる。他方、サプライヤーの改編については、それによる負の効果（例えば海外小規模サプライヤーの切り捨てや、販路の縮小）等の弊害を防ぐ観点を持つことも重要である。したがって、サプライチェーンの見直しを17目標の観点から多角的に行うことが重要である。
2. 生産者直販などのビジネスでは、カーボンフットプリントの削減も期待できる。
3. コロナ禍で増えたプラスチック使用量の削減：リサイクルなども活用。バイオマス起源プラスチックの活用など。

⁹ Bill & Melinda Gates Foundation (2020) : COVID-19 A GLOBAL PERSPECTIVE 2020 GOALKEEPERS REPORT, 4-5pp.

¹⁰ Bertelsmann Stiftung and Sustainable Development Solutions Network (2020) : Sustainable Development Report 2020, 12pp.

達成に貢献する主なターゲット

- 2.1 (安全で栄養のある十分な食料の確保)
- 2.3 (小規模食料生産者の生産性と所得の倍増)
- 2.4 (持続可能な食料生産システムを確立とレジリエントな農業の実践)
- 12.1 (「持続可能な消費と生産に関する 10 年計画枠組み (10YFP)」の実施)
- 12.3 (食品ロスの削減)
- 12.5 (3R による廃棄物削減)
- 17.11 (開発途上国の輸出の大幅な増加)